

歴史街道計画

－ 関西での広域×官民×省庁横断型事業

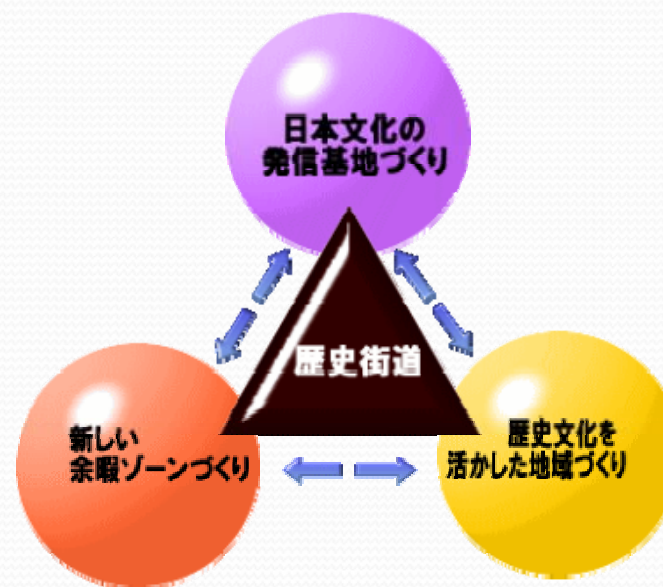


2010・10・27
井戸智樹

I 活動の概要

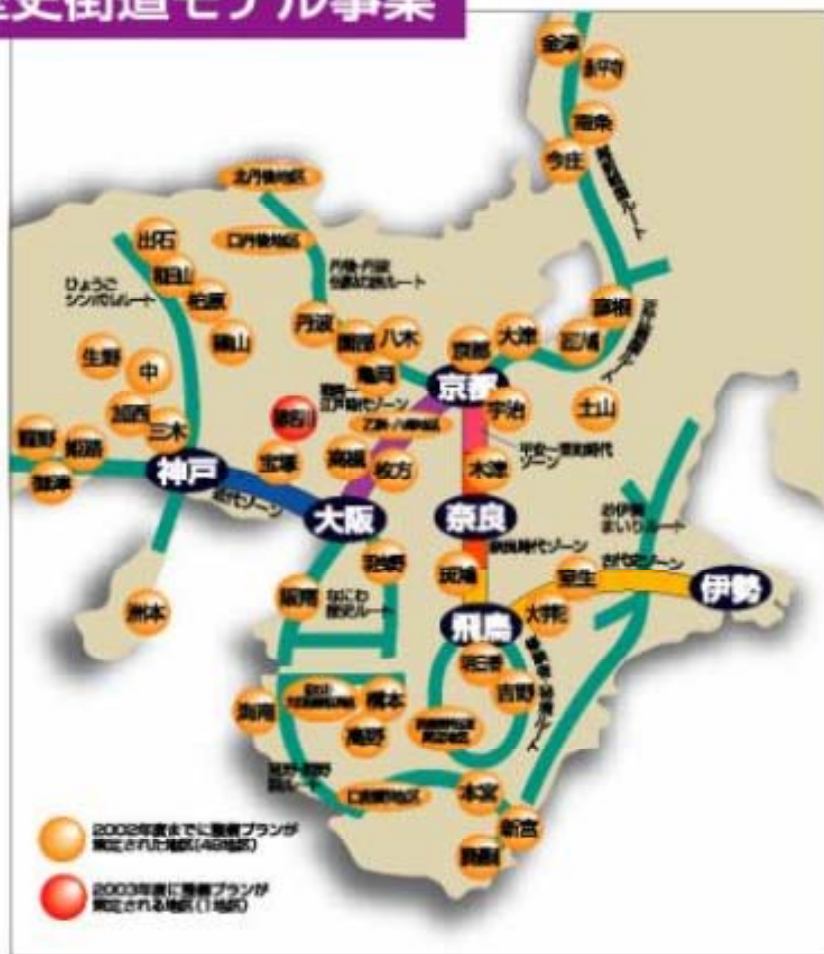
「世界を考える京都座会」(座長・松下幸之助)からの提言(1988年)を受け、全国の広域連携・官民連携の先駆けとなる組織として協議会設立(1991年)。

構成は関西の8府県・
65の歴史的地域・
124企業など217団体
と 4000名の市民。



1 歴史文化を活かした地域づくり (歴史街道モデル事業:50地区)

歴史街道モデル事業



地域別歴史テーマの設定＋市・県・国・民間の協働 (宇治市における「源氏物語のまちづくり」事例)



2 広域観光の振興

- ①テレビ番組(NHKBS、朝日放送:4000回)
- ②出版(月刊「歴史街道」、各種ガイドブック等)
- ③シンポジウム、東京駅等での展示
- ④市町村共同事業
(約100種のツアー、スタンプラリー等)
- ⑤歴史街道iセンター(広域案内施設:40箇所)
- ⑥語り部連携事業(20地域)
- ⑦博物館連携事業 ⑧駅の連携事業
- ⑨古道・街道の活用 ⑩日本風景街道



3 海外への情報発信 (海外フォーラム:50回)

アジア:ソウル・釜山、北京・上海・香港、台北・
高雄・バンコク・シンガポール・

クアラルンプール・ダナン・ホーチミン

北南米:ニューヨーク・ワシントン・ボストン・

ミネアポリス・ロサンゼルス・シカゴ・

サンフランシスコ・デトロイト・シアトル、ト
ロント・バンクーバー、サンパウロ

欧州・オセアニア:ロンドン、パリ、ベルリン・フ

ランクフルト・ミュヘン、マドリッド、ジュ

ネーブ、ミラノ、アムステルダム、ブラッ

セル、シドニー・メルボルン



(その他海外関係事業)

- ①北京放送でのラジオ帯番組(84回)
- ②韓国教員の招聘(1500人)
- ③留学生ツアー
- ④プレス・エージェント・テレビクルーなどの招聘
- ⑤外国語案内の充実
- ⑥外国語ガイドブック(英・中)
- ⑦10言語のHP
- ⑧海外の観光ルートとの交流
(ドイツ・カナダ・ベトナム・・・)



II これからやって行きたいこと

— 世界遺産の活用＋関西の観光地再編成

地域(北から)	主要テーマ	主なターゲット
北近畿・琵琶湖	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの観光エリア形成(丹波丹後但馬・近江・越前) ・歴史文化＋エコ・農林漁業体験 	京阪神 (歴史ファンに限らず)
世界遺産＋大都市ルート	<ul style="list-style-type: none"> ・国の国際観光施策との連携 ・「百舌鳥・古市古墳群」「飛鳥・藤原京」の世界遺産化推進 	世界 (アジアに限らず)
紀伊半島(世界遺産)＋伊勢志摩	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の精神文化の発信 ・広域案内の充実 ・温泉地連携による長期滞在化 	全国の歴史ファン



広域地方計画先導事業(09年)

関西の世界遺産(「暫定リスト搭載にふさわしい」段階のものを含む)＋大都市圏を結ぶルート形成

百舌鳥・古市古墳群—飛鳥・藤原京—法隆寺—奈良—宇治・京都・大津—(大阪)—神戸)—姫路城 = 古代から近世



④テストツアーの実施(10本)

- ・堺の歴史をめぐる
- ・遠つ飛鳥と近つ飛鳥
- ・古代大和のロマンをたどる 山の辺の道
- ・太子ゆかりの三寺と藤ノ木古墳
- ・奈良で仏像を堪能する
- ・源氏ロマンの宇治と伏見・山崎
- ・京都東山の社寺めぐり
- ・比叡山延暦寺と里坊・坂本をめぐる
- ・愛宕街道(鳥居本)と嵐山花灯路
- ・姫路城・書写山と瀬戸内の魅力

⑤HP(10言語)の強化 …テレビ番組映像の 取り込み(日・英・中・韓)

⑥全国の世界遺産地連携



Ⅲ 質問へのお答え

1 設立の経緯・背景

- ・時間旅行＝堺屋太一氏のアイデア(－86年)
 - ・「世界を考える京都座会」(松下幸之助座長)での研究・提言(88年)
 - ・関西財界、自治体への働きかけ→呼びかけ人会の結成(89年)
 - ・民間主導で事業化に向けての研究(－91年)
 - ・協議会発足(91年:官民65団体)
-
- ・「顔のない国・日本」
 - ・地方の時代、文化の時代
 - ・東京追従型事業、ハード優先プロジェクト、イベント志向への反省
 - ・関西は1つ? 1つ1つ? ・華やかなりし「財界」活動
 - ・関西人の負けじ魂(東京コンプレックスともいう)

2 構想・計画段階から実施段階へ

(1) 構想を計画にまで具体化し、事業実施の準備をする時期

- ・官民での「マスタープラン」(92年)
- 「マスタースケジュール」→離陸準備(93年)

(2) 「3つの目標」の柱となる3事業をスタート

- ・歴史街道モデル事業(93年～:50地区)
- ・朝日放送のTV番組(94年～:3800回)、市町村共同事業など
- ・海外フォーラム(95年～:50都市)

(3) 3事業の成果拡大+広域組織ならではの事業の拡大(96年～現在)

(4) 創造的破壊期へ(2011年～)?

主な工夫点

- ①相乗効果づくり(地域×地域、官×民、ソフト×ハード、観光×地域づくり)
- ②実績・信用・資金の好循環づくり
- ③事業
 - ・広域組織が推進すべき事業分野の絞り込み
(一体型・分担型・共有型)
 - ・何を誰がやるかの明確化
→全体事業、共同事業、個別事業、関連事業
 - ・中期(3年:現在6期)単位での事業評価と見直し
- ④資金
 - ・会費収入とその他収入
 - ・拠出目的に応じた用途分類
 - ・この指とまれ型事業

3 行政との関係(組織・人材)

- ・官民寄り合い所帯の難しさ
→現状はプロパー(5名)+民間出向者(8名)のスタッフ
- ・スタッフに必要な資質
・・・「公共心」「若さ」「縦割り・地割り意識なし」「チャレンジへの意欲」
「成果主義」「コスト感覚」「知性・柔軟性・・・」

→官民がお互いの長所を活かせば最高の組織ができる可能性があるが、双方の欠点がむき出しになり失敗するのが普通
- ・寄せ集め組織の課題＝「ダメ人材との戦い」
→プロパーの活用、フラットな組織

4 行政との関係(事業・資金)

- ・組織そのものへの官の参加は当方の場合絶対不可欠
- ・協議会運営は民間からの資金の方が多いという構成(会費ベースで民間企業から2500万、個人会員からもほぼ同額、行政は1300万円)。
- ・県、市町村の位置づけ(民間＋市町村主導、府県・国支援)
- ・国の資金について(現状はゼロ)

- ・組織としての問題＝財政(最盛期2億5千万→現在1億)
? 民間 ▲都道府県 ×随契

- ・社会資本整備一括助成金の出現→旧・国土庁が担ってきた「国土づくり地域づくりに関わるソフト事業」系は全国的に大苦戦中
→地方分権と出先機関廃止のエアポケットによる「担い手不在」状況も

5 官民連携の意義、成果例

- ・官民が「阿吽の呼吸」で連携することは、地域活性化には絶対必要
- ・ソフト事業(民間)とハード事業(行政)の「合わせ技一本」の世界を！







①ハード(景観・道路・河川・モニュメント・箱モノ・・・)

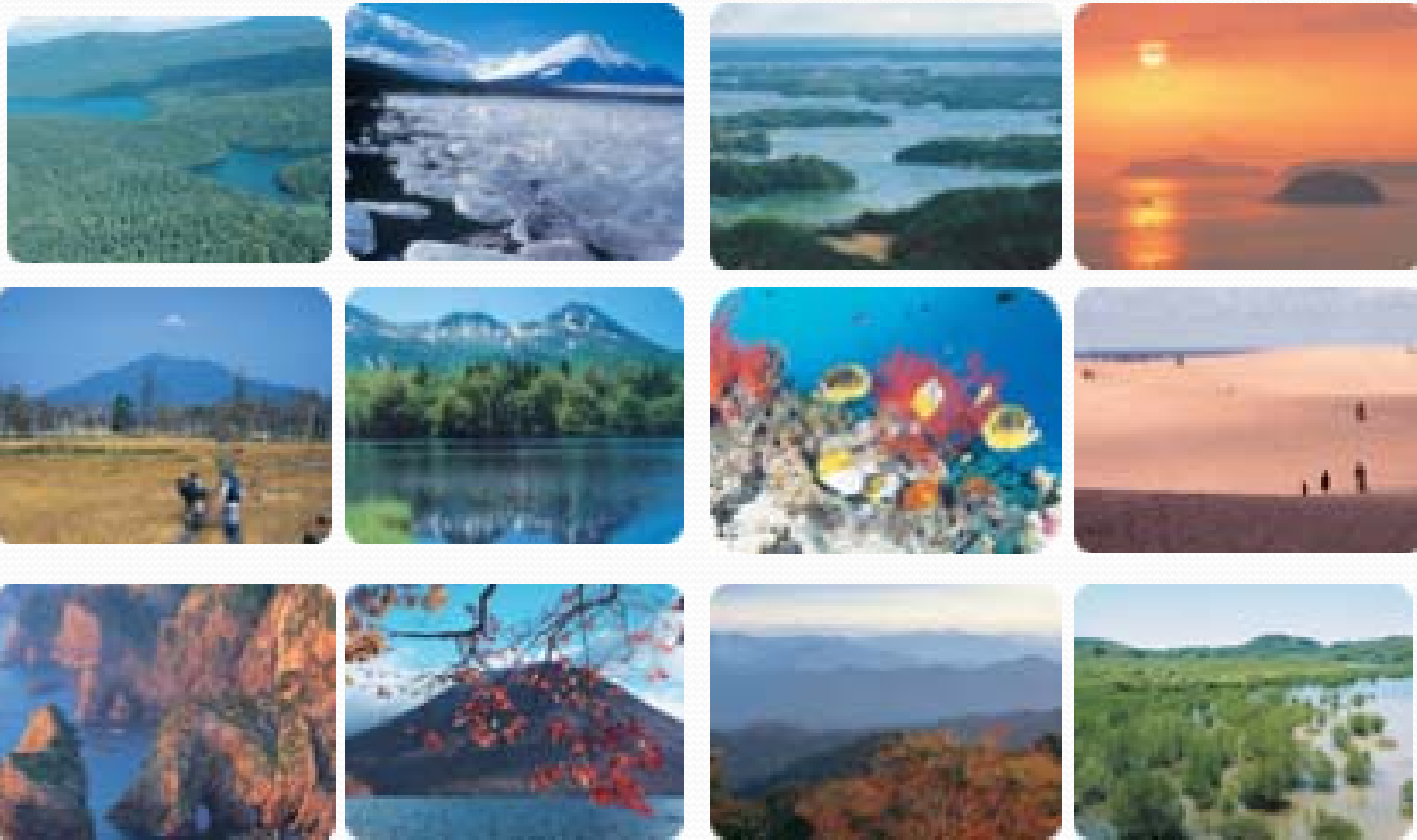
②ソフト(コミュニティビジネス・グルメ・情報発信・イベント・モラル・地域の誇りづくり活動・・・)

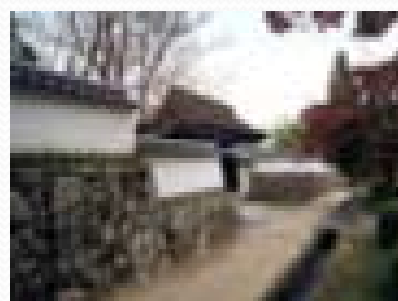
③地域の素質(自然景観・観光資源・ストーリー・・・)

→ ① × ② × ③ = 地域魅力

IV ご提案

(1) 縦割り行政の徹底排除を目指す制度に





(2) 全国一律を排し、地方の特質に積極的に配慮する制度に



- ・例えば九州は温泉、北海道・中部・沖縄は国立国定公園、関西は世界遺産や文化財、関東は都市魅力(東京・横浜・TDL・鉄道博物館・・・)をメインに打ち出せば、国としての魅力はもっと高まる
(広域団体はそういった方向性と消費者・現場を結び付ける役割)
- ・地方出先機関の廃止論

(3) 都道府県を跨ぐことで成果が出る事業を優先すべき

- ・同県内で複数の市町村が何かを実施することを支援するのは、都道府県の役割
- ・県境観光地の悲劇(近つ飛鳥と飛鳥、恭仁京・笠置・加茂、比叡山、天王山・淀川、伊賀と甲賀、城崎と丹後、古道・街道……)



(4)「日本を元気にできなかった」先行事例の失敗に学んで欲しい

- ①これから頑張ります、という団体へのバラ撒きはNG
- ②国が金をやるから〇〇しろというのはNG
- ③ソフト事業に関しては、多くもなく少なくもない資金を「奨学金」代わりに
(ただしそのラインアップは「この50？組織(50？プロジェクト)を支援することによって日本を元気にする(成長戦略に乗せる)」と国や選定委員が自信を持てる構成に)
- ④観光関連の場合は、素質が低い地域への投資は効果薄

